

令和2年度 推薦入試

環境デザイン学科 小論文問題 出題意図

1

本学科で扱う専門分野の学習に必要と考えられる基礎学力、論理的思考力などを確認することが出題のねらいである。

本問では、持続可能な発展の考え方の基礎にある世代間倫理に関する文章を読み、どの程度その内容を理解できるか、またそれを踏まえて、どの程度自分の意見を論理的に表現できるかを問う問題とした。

2

問1 下線部①と②の趣旨は、日本の伝統的な住まいは開放的で、内部空間と外部空間との連続性が高いという指摘である。そのために、深い軒の下や、縁側などが重要な役割を果たした。開放的な住まいの背景には、「日本の高温多湿の気候風土」をあげることができ、古くから「夏を旨とすべし」などとも言われてきた。さらに日本の伝統的な住宅は木造で、柱と梁で組み立てる構造（専門的には[軸組工法]と呼ばれ、フレーム工法などと呼んでも良い）で建てられていることも、住まいの開放性の理由としてあげることができる。このような日本の伝統的な木造住宅の特徴に関する受験生の基本的な知識と認識の程度を問い、評価する。

問2 下線部①と②の趣旨を踏まえた「現在の日本の住宅が抱える課題」とは、冷暖房設備の普及により、室内環境を魔法瓶のように外部環境とは無関係に人工的にコントロールするという考え方の浸透と、そのような住宅の増加によって、家庭内消費エネルギーが増加し、地球温暖化を促進させているとして、省エネやエコロジーの観点から批判されていることを主として指している。現代住宅に対してどのような課題意識を持っているのか、その認識の深さや内容を問い、評価する。

「現代住宅のあるべき姿を論ぜよ」は、自由記述問題であるが、問題のテーマ性を踏まえつつ、特に日本の住宅における外部環境との関わり、自然環境との関係性、あるいは都市の環境問題との関係などについてどのように論じ主張するか、その視点の置き方や独自性、論理展開の妥当性、具体性などを評価する。